

平成30年度 全国学力・学習状況調査 結果分析概要 (小学校6学年・中学校3学年)

宮代町教育委員会

◇調査結果の概要

小学校、中学校共に、A問題の国語・算数、数学は県の平均正答率をやや上回っているが、B問題、理科は埼玉県平均を下回っている。実際の生活場面で、学習したことをそのように活用するかが、今後の課題である。

小学校6学年

<国語A (平均正答率) 宮代町 72 県 71 国 70.7 国語B 宮代町 53 県 54 国 54.7>

A問題では、領域「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化」の平均正答率において県を上回ったが、他の領域「話すこと・聞くこと」において下回っている。特に「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く」設問の正答率が県、国と同様に低くなっている。

B問題では、領域「書くこと」の平均正答率において県を上回ったが、他の領域（「話すこと・聞くこと」「読むこと」）において県の平均正答率を下回った。「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く」設問の平均正答率が低い。今後、自分の考えをまとめる際には、相手の意見と自分の意見との共通点や相違点を整理することなどが大切である。相手の意見を聞いて考えたことや、共感したり納得したりした内容や事例を取り上げるなどして、自分の考えを筋道を立ててまとめることができるように指導を工夫する。また、推薦理由を明確に伝えるためには、事例を挙げて具体的に説明することが有効である。事例を挙げて書く際には、自分の考えを具体化したり、相手の理解を促したりすることができるかどうかを判断すること、必要な資料を集め、得た情報を適切に関係付けて書くことなどが大切である。また、詳しく書くことで、分かりやすくなることなどを指導する学習について、各学校に指導していく。

<算数A (平均正答率) 宮代町 63 県 62 国 63.5 算数B 宮代町 52 県 50 国 51.5>

A問題では、領域「量と測定」「図形」「数量関係」において県平均正答率を上回ったが、領域「数と計算」は下回った。特に「答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ(小数の除法の意味)」の平均正答率が35.8%と低い。

B問題では、4つの領域（「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」）において県平均正答率を上回った。「メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる」設問、「棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる」設問において課題が見られた。

問題場面を図や数直線などに表し、数量の関係を的確に捉え、立式する活動が考えられる。その際、乗法の問題場面と除法の問題場面をそれぞれ表した、テープの図と数直線を合わせた図を比較することができるようにすることが大切である。割合に当たる大きさを求める場合には乗法が用いられ、1に当たる大きさを求める場合には除法が用いられることを理解できるようにすること。また、グラフの特徴を複数の観点で捉えて、情報を読み取ることができるようにするために、他者が読み取った情報や観点をグラフと関連付けて解釈することができるようにすること。あるグラフから読み取った情報が適切かどうかを検討したり、考察した結果から見いだした新たな問題を解決したりするために、グラフを新たに作り、それぞれのグラフから読み取ることができる情報を関連付けながら考察することができるようにすることができ学習について、各学校に指導していく。

<理科 (平均正答率) 宮代町 58 県 59 国 60.3 >

A区分「物質」において県平均正答率を上回ったが、A区分「エネルギー」B区分「生命」「地球」は下回った。特に「より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる」「太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できる」設問の平均正答率が低い。今後は、自分の予想にとらわれずに事実と解釈の両方を表現することで、よりの確な説明になることを捉えられるように指導すること。また、解釈した内容が問題と正対しているかを確認するなどの学習活動が

考えられる。学んだことを基にしたものづくりへの適用ができるようにするためには、ものづくりの目的や獲得した知識をものづくりにどのように活用するかを明らかにするとともに、できたものが目的に合ったものになっているかを振り返り、設定した目的に対して、計測し、制御する学習活動を保障する学習について、各学校に指導していく。

中学校3学年

<国語A (平均正答率) 宮代町 75 県 75 国 76.1 国語B 宮代町 60 県 61 国 61.2>

A問題では、領域「伝統的な言語文化」において県平均正答率を上回ったが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」いずれも県平均正答率を下回った。「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う(彼はせきを切ったように話し始めた)」「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く楷書と行書との違いを理解する」設問において課題が見られたが、「文脈に即して漢字を正しく読む(池の水が凍る)」設問では、100%(212名の生徒全員が正解)の正答率であった。

B問題では、領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化」において県平均正答率を上回ったが、「読むこと」は県平均正答率を下回った。昨年同様「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く」設問において課題が見られた。

気になった語句をノートに書き留め、その語句を使った短文を作ったり、話や文章の中で使ったりすることや、心の動きや、身の回りの様々な物事などについて具体的な内容を盛り込んだ文を書き、伝えたいことを適切に表現するための語順や語の照応について検討するなどの学習活動を取り入れる。また、段落ごとに内容を捉えたり、段落相互の関係を正しく押さえたりしながら、更に大きなまとまりごとに、文章全体における役割を捉えるように指導することが重要であり、図表などが示されている文章を読む際は、文章と図表などとの関連を捉えたり、書き手の意図やその効果について考えたりするように指導し、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、文章の構成や展開を捉えて内容を理解できるように指導していく。

<数学A (平均正答率) 宮代町 66 県 65 国 66.1 数学B 宮代町 45 県 47 国 46.9>

A問題では、領域「式と計算」は県平均正答率を上回ったが、他の領域「図形」「関数」「資料の活用」では県平均を下回った。「具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形することができる」昨年同様「一次関数の意味を理解している」設問の平均正答率が低く、課題が見られた。

B問題では、すべての領域「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」において県平均正答率下回った。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」「与えられた情報から必要な情報を選択し的確に処理することができる」設問に課題が見られた。

具体的な場面で目的に応じて式を変形することの意味や、変形して得られた式を具体的な場面で利用することのよさを感じ得るようにし、等式の性質などを用いて目的に応じて変形できるように指導する。また、具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応の様子を調べることを通して、2つの数量の関係が一次関数であるかどうかを判断することができるようにし式に表すことが困難な生徒に対しては、数量の関係を言葉の式や線分図などで表したり、具体的な数値で表をつくらしたりする活動を取り入れる。さらに、問題解決の方法に焦点を当て、何をどのように用いればよいかといった「用いるもの」と「用い方」を確認し、表、式、グラフの「用い方」について説明する場面、問題解決の方法を振り返る場面を設定し、問題解決の方法を説明し合い、互いの説明を比較検討する活動を取り入れる。実生活の場面で、事象を目的に応じて数値化して判断する場面を設定し、与えられた情報から必要な情報を選択し、数直線や比などに表すことで、基準量・比較量・割合を捉え、それらの関係を的確に式に表す活動を取り入れた指導をしていく。

<理科 (平均正答率) 宮代町64 県65 国66.1>

第1分野「化学的領域」において県平均正答率を上回ったが、第1分野「物理的領域」第2分野「生物的領域」「地学的領域」において県平均を下回った。「神経系の働きについての知識を身に付けている」「オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる」「植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる」設問に課題が見られた。

外界からの刺激が受け入れられ、感覚神経、中枢神経、運動神経を介して反応が起こることを、観察・実験や日常の経験などを通して理解する学習場面の設定や2種類の抵抗器に加える電圧と流れる電流の大きさを測定する実験を行い、その結果をグラフに表し、電流と電圧との関係を見いだすことが考えられる。その際、2種類の抵抗

器に同じ電圧を加えたときに流れる電流の大きさを比較して、電流の流れにくさを見いだしたり、オームの法則を使って、抵抗の値を求めたりする学習場面を設定。また、はじめに「変化すること（従属変数）」と「原因として考えられる要因」を全て挙げ、それらの妥当性を検討する。次にそれらの要因を「変える条件（独立変数）」と「変えない条件」とに整理して、実験を計画する学習場面を設定し指導していく。

2 質問紙調査について ※回答項目の一部を掲載

多くの児童生徒が自己肯定感（自尊感情）、自己有用感、夢や目標を持って生活している。家庭でも家族と関わりながら、学習に取り組んでいる様子が窺える。

○自分には、よいところがあるとおもいますか。 <「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答>

【小学校】（宮代 82.1 県 75.1 国 84.0）

【中学校】（宮代 76.0 県 73.2 国 78.8）

○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

<「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答>

【小学校】（宮代 89.2 県 89.3 国 85.3）

【中学校】（宮代 87.2 県 86.4 国 82.2）

○朝食を毎日食べていますか<「している」「どちらかといえば、している」の回答>

【小学校】（宮代 95.7 県 94.0 国 94.5）

【中学校】（宮代 92.6 県 94.3 国 91.9）

○将来の夢や目標を持っていますか。 <「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答>

【小学校】（宮代 85.7 県 80.3 国 85.1）

【中学校】（宮代 74.4 県 82.6 国 72.4）

○家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか。

<「している」「どちらかといえば、している」の回答>

【小学校】（宮代 84.2 県 81.9 国 80.5）

【中学校】（宮代 78.6 県 76.9 国 76.0）

○家で、学校の宿題をしていますか<「している」「どちらかといえば、している」の回答>

【小学校】（宮代 98.0 県 97.4 国 97.1）

【中学校】（宮代 91.1 県 91.5 国 91.6）

○家で、学校の授業の予習・復習をしていますか<「している」「どちらかといえば、している」の回答>

【小学校】（宮代 69.8 県 63.9 国 62.6）

【中学校】（宮代 60.3 県 62.7 国 55.2）